

## 1. 学校モデル事業

### 目的

- ・地域の人が学校に出向き、日常の学校とは異なる環境の中で交流できる居場所をつくる。
- ・アクセスしやすい学校内に若者がホッとできる居場所（サードプレイス）をつくる。

### 成果

- ・学校内で生徒がほっとできる居場所を定期的に運営することで、他愛もない会話だけでなく様々な悩みを話してくれるようになった。
- ・家族や学校の先生以外の地域の大人と生徒が交流することで、両者にとって新たな学びや発見があった。

### 取組内容

- ・区内私立高校にて令和4年11月から月1回程度校内カフェを実施している。
- ・令和6年度の都立高校での実施に向けて現在調整中。

### 課題

- ・運営主体・スタッフの確保
- ・福祉的な視点を持った運営スタッフの人材育成、研修の実施

# 学校モデル事業 『校内カフェ』 @大東学園高等学校

実施回数：年11回（8月を除く月1回2時間程度実施）

参加人数：生徒 のべ565名（1回あたり平均約50名）

スタッフ（青少協委員、アップス職員、地域の大人、世田谷区職員）  
のべ81名（1回あたり平均約7名）

## <最近の様子>

- ・生徒がそれぞれのスタッフと関係性を築いており、学校や家庭でのできごとを話したり、様々な悩みを吐露するようになった。
- ・アップスへ来館する生徒が増加し、居場所として利用している。

## <来年度に向けて>

- ・大東学園：引き続き月1回程度実施予定。日程調整中。
- ・都立世田谷泉高校：9月～12月に月1回程度実施予定。  
夕休み（16:15～17:00）をはさんだ2時間程度。詳細は調整中。



## 2. 商店街モデル事業

### 目的

- ・身近な地域の中に若者の「第三の居場所」を作り、多様な人々との出会いや交流を生み出す
- ・若者の意見表明、反映の場を生み出す

### 成果

- ・イベントの開催、出店を通じて、若者の声を聴くことができた。また、普段関わることがない人達との多世代交流ができた。
- ・若者のやりたいことを話し合い、実現させることができた。

### 取組内容

- ・月1回の企画会議
- ・イベントへの出店（ムーンアートナイト下北沢など）
- ・イベントの開催（Hub culture）

### 課題

- ・新規運営メンバー、イベント参加者の確保
- ・団体としての将来像、継続性の不透明さ

# 商店街モデル事業 『しもきた倶楽部』 主催イベント

名称：Hub Culture #シモキタのニューウェーブ”お笑い”

日時：令和6年2月22日（木）午後7時～午後9時30分

場所：北沢タウンホール12F スカイサロン

実施内容：2名のゲスト（お笑い芸人）をお招きし、パネル  
ディスカッションやワークショップを実施

- ・自己紹介&アイスブレイク
- ・ゲストトーク
- ・ワークショップ(日常のモヤモヤをニコニコに転換)
- ・ゲストを交え参加者同士のトークタイム

参加人数：12名

※当日は、軽食とドリンクを用意した

